

## 上田 秀子 さん を 送 る

鈴 木 増 雄 (物理学教室)

上田秀子さんは、東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）理科（数学選修）を卒業された後、母校の千葉県立安房第二高等学校の教諭を約6年間されていたこともあり、教育経験も深く、その後編集関係の仕事がされていた時期も経て、昭和42年9月1日より、東大理学部物理教室に現在まで勤務されました。最初の一年間は、事務補佐員の身分であったが、当時、物理教室主任であられた久保先生のご尽力により、昭和43年10月1日より、文部教官教育職助手の身分になられ、物理教室の教務、物理専攻教務の一切を担当されました。

特に、大学院関係の仕事は、膨大なものであり、院生数約280名、教官数約130名、部局数12、助手約105名に関する事務量は想像に余りあります。学生の成績、論文（修士、博士）、教材、その他もろもろの世話。教官に対しては、講義、入試、会議、教官人事等の事務。……あげればきりがないう程です。

これらの仕事をてきぱきとこなしてこられた上田さんには本当に頭がさがる思いです。しかも責任感が強く、一年間の計画を立てて自発的に仕事をされてこられたので、歴代の主任が研究も続けながら主任業を務められたのではないかと思います。少なくとも私の場合にはその思いが強く、感謝の気持でいっぱいです。

学生にとっても、上田さんはなくてはならないもっとも有難い存在だったのではないのでしょうか。卒業間際の学生で単位の足りない者がいないかどうかと気を配り、あれば一人一人連絡をとったり、親身になって学生の面倒をみてこられました。上田さんのお蔭で卒業できることになった学生は少なくないでしょう。そうして卒業していった学生も今では社会で立派に活躍している者も多く、教育は厳しさだけではなく温かい思いやりも必要であると痛感している次第です。このような教育的な配慮にも上田さんの高等学校での教諭としての経験が大いに役立っているものと推察されます。また会議の資料作りや報告書等の文書作製の手際の良さは、かつて編集関係の仕事に携わっておられた経験が見事に生かされたためかとも思われます。これら長年の功績に対して、昭和63年4月12日には、東京大学職員として表彰されました。このように22年以上もの長い間、物理教室および物理専攻のために骨身を惜しまず尽して頂き本当にありがとうございました。教室を代表して心よりお礼申しあげます。

東大を去られた後もどうかくれぐれも健康に気をつけて、今後ますますお元気で充実した新たな人生を楽しまれるよう心からお祈り申しあげます。